



手をたずさえて

「一隅を照らす」アフガニスタンに人生を捧げた中村哲さん



「100の診療所より1本の用水路を…」

アフガニスタンで銃撃されて亡くなった医師、中村哲さんの残した言葉です。中村さんは、今から35年前にハンセン病治療のためパキスタンで医療活動を始め、1991年には、アフガニスタンで初めて診療所を開設しました。しかし、2001年から始まったアメリカによるアフガニスタンでの軍事作戦などの影響で、現地での医療活動は大幅な縮小を余儀なくされました。さらに、この頃、アフガニスタンでは干ばつが悪化し、水不足による栄養失調や感染症が急増。このため中村さんは、医療活動と並行して井戸を掘る活動を始め、2006年までに飲料用の井戸およそ1600本と、かんがい用の井戸13本を掘ったということです。戦乱が続くアフガニスタンでは、干ばつと飢餓、病気、貧困も民衆を苦しめていました。難民は後を絶たず、傭兵（金銭などの利益により雇われ戦闘・闘争に参加する兵士のこと）を志願する男たちも出てきました。

診療所を開設し、医療に当たってきた中村さんは、「100の診療所より、1本の用水路が命を救う」と考え、「緑の大地計画」に乗り出しました。白衣を脱いだ中村さんは自ら土木技術を学び、用水路建設工事の先頭に立ちました。農民は村の再生をめざして協力し、人海戦術で水路を掘り進めました。最も難航したのは、大河から水を引く取水口の工事でした。失敗を繰り返しながら、日本の伝統的な治水工法を取り入れ成果を上げました。中村さんの不屈の姿勢とともに、現地の人達との深い信頼関係がそこにはありました。25kmに及ぶ用水路が完成し、荒涼とした大地は人間だけでなく、様々な動植物も生息できる緑豊かな大地へと変貌しました。過去と現在を比較する画像がテレビで映し出された時には、人々の苦闘をうかがうことができ、強く胸を打たれました。中村さんの活動によって、これまでに、福岡市の面積のほぼ半分に相当するおよそ1万6500ヘクタールでかんがいが行われ、65万人の生活が維持されていると言われています。



なぜこのような人物が凶弾に倒れ命を落とさなければいけないのか、本当に、世の中の「理不尽さ」を強く感じます。残念でなりません。

そして、同時に、あの増田太郎さんの教育講演ライブのテーマ《だから、生きる！》と、中村哲さんの姿が重なり合う想いがしました。

中村哲という人物は、自分の《生きることの意味》をアフガニスタンという国、そして、その国の人々に見いだしていたのでしょうか。《だから、中村さんは、そこに身を置いて生きたのだろう。》と…まさに、《命の水》、そして、《アフガニスタン》に自分の人生を捧げた、と言えます。

「これは平和活動ではない。医療の延長なんですよ。どれだけの人間が助かるということ」。こう語った中村さんは、あくまでも一人の医師として《人の道》を全うしたのだと思います。

中村さんは、天台宗を開いた最澄の《一隅を照らす》を座右の銘にしていました。

「自身が置かれた場所で、一つのことにも最善を尽くす」という意味です。長年、アフガニスタンに赴き、医師としての活動の枠を越えて、用水路を建設するなど現地の人たちに寄り添い続けてきた中村さんが、講演などで繰り返し伝えてきた言葉です。《一隅を照らす》…派手さはありませんが、何と意味深い、重みのある言葉なんだと感じます。

3年生は、いよいよ勝負の時です。1・2年生にも1年後、2年後には必ずこの時がやってきます。今からの数ヶ月の生活の仕方や学習への取り組みが本当に重要になります。逃げたり、ごまかしたり、あきらめたりすることなく、どうか1日1日を取りこぼすことなく確実に過ごし、やるべきことに本気になって取り組んでいてください。今、自分が置かれている場所で、進路目標達成のための取り組みに最善を尽くす、《一隅を照らす》ということです。

最後になりますが、夏休み同様、この冬休みの富中の目標は、事故「0」の冬休みにすることです。年末年始と世の中は気ぜわしさを増していきます。それらに流されることなく、危険回避の判断、そして善悪の判断をしっかりとつけ行動できるようにしてください。

それでは、どうかよい年を迎えてください。

～第2学期終業式校長式辞より～

かがやくことたくさん...

12月25日に行われた第10回受賞報告会で報告されたものです。すでに学校たよりに掲載したものはここには載せていません。

■ 山田養蜂場主催 朝日学生新聞社共催 ミツバチの一枚画コンクール **団体奨励賞** 美術部 (代表 河原美幸)

■ 県造形作品秀作審査会 **特選** 大越奏太、堀越 楓、吉田果南、八島 冴、菅野楓真

■ 市生徒造形展 **特選**

大河内心響、大和田美乃里、近内咲花、今野陽菜、増子亜美、山口夢奈、岡田蒼唯、兼子伶菜、志田柚季、武田侑弥、西本夏菜、南梨夢乃、穂刈一葉、佐々木萌里、藤田夏凜、柳田結衣、小田あい、熊田奈乃香、石川一平、小林瑚乃羽、齋藤彩音、鈴木紗菜、平山乃蒼、星ひらり、五十嵐はな、小澤颯太、前林沙里奈、齋藤茉理、野木さくら、瀬野巧夢、佐藤瀬那、宮井楓加、鈴木真太、吉田果南、梨本義斗、八島 冴、菅野楓真、佐藤絢音、瀧田ゆら、千葉桃佳、坂内 萌、堀越 楓、鈴木理瑚、円谷美咲、馬場翔悟、丸野和士、近藤碧桜、佐藤優瓜、橋本未千加、安齋紗衣、大河原千尋、紺野芽依、佐藤淳彩、佐藤琴音、古川優芽、堀金阿子、柳沼ほのか、吉田歩花、相良優和、成田美咲、佐田玄騎、佐川隼也、青山梨聖、渡部陽夏乃、増子創太、飯村琴海、大越奏太、太田彩音、岡田彩音、長田麻由、鈴木心結、山田恋奈、伊藤 杏、大浜珠結、風間彩那、鈴木ひかり、野木京華、角田 凜、國分悠楽、齊藤巴奈、坂野円花、菊池ころこ、大友颯空

■ J A福島県小・中学生書道コンクール **佳作** 鈴木琉彩 奨励賞 鈴木ひかり
交通安全ポスターコンクール **銅賞** 前林沙里奈、大河内心響

■ 郡山卓球選手権大会 **団体の部 第3位** 富田中A 半澤美紗、菅野明里、二瓶柚乃、星 心菜、遠藤芳純

■ アンサンブルコンテスト県南支部大会

銀賞 フルート四重奏 水野稀子、遠藤結月、山崎美咲、齋藤茉理
サクソフォン三重奏 萩川あさ、菊池優菜、高橋らぶ

銅賞 金管八重奏 大河原千尋、眞島ななみ、竹荒陽菜梨、橋本華奈、村田萌夏、鈴木清華、本田 環、古川優芽

■ 火災予防絵画・ポスターコンクール 火災予防部門 **優良賞** 穂刈一葉

■ ふくしまデザインコンテスト2019 **入選**

○キャラクターイラスト部門 大和田美乃里、柳田和夏、兼子伶菜、日下未悠
○4コマまんが部門 齋藤拓斗、熊田奈乃香、小林瑚乃羽、工藤心悠
○ファッションデザイン部門 兼子伶菜、鈴木優美音
○ネイルデザイン部門 増子亜美、滝沢倭乃

■ 福島県声楽アンサンブルコンテスト **奨励賞**

佐藤千颯、瀧田ゆら、星 海翔、佐藤里南、鈴木理瑚、長尾健ノ介、丸野和士、渡部倭吉、小林凌誠、榮 温人、渡部蒼志、岩崎祐莉、近内健二、志田央輔、村山瑠架、安齋紗衣、菅野楓真、佐々木美香、菅野那樹、高橋彩葉、永井 心、遠藤芳純、熊田空良、白鳥瑞季、吉田歩花、安部優奈、上野陽生、大和田晃心、海藤優心、鈴木奈々、藤田夏凜、菊地泰暉、穴戸幸穂

■ 郡山市中学校ソフトテニス強化リーグ秋季大会

男子 **第2位** 菅野悠翔、佐藤千颯、馬場翔悟、丸野和士、宗像俊輔、岩崎祐莉、後藤純平、佐藤 唯、鈴木優斗、高橋順平、菅野那樹



保護者の皆様へ

本日2学期が終了しました。今年度は10連休の関係で、いつもより遅い25日の終了となりました。改めまして、2学期の本校教育活動へご協力に感謝いたします。「1年の計は元旦にあり」の言葉通り、新たな決意や目標をもって、新年がスタートできれば、と考えております。特に3年生の大部分は、人生最初の関門に挑む正念場を迎えることとなります。体調管理や生活のリズムづくりなどの支援、さらには温かい励ましをお願いいたします。保護者の皆様もどうか良いお年をお迎え下さい。

